

事業者向け

児童発達支援 自己評価表
みらいサポート こっちゃん

職員常勤4名非常勤2名
非常勤職員内同社別事業所を主としている
職員1名、未実施1名
R2年 12月 1日更新

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	改善目標、工夫している点など	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	2	1	1	活動内容や状況に応じ環境設定など配慮し工夫している。クールダウン時に使用できる個室などはないため、当日の活動によって区切りにくいと感じる時がある。	活動内容も工夫し、環境設定していきます。
	2	職員の配置数は適切である		2	2	基準は適切に配置できているが、外出時などの安全性を考慮すると更なる配置が必要だと感じる。	基準は満たしているが、一人一人の児童とより関わってほしいようにしていきたい
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	2	2		来所から活動に入るまでの流れは分かり易く工夫されている。室内に段差などなく現在バリアフリー化が必要な児童の利用は無いが今後必要に応じて設置が可能。	環境に応じて対応していく
業務改善	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	2	2		掃除のほか、滅菌作業を継続し清潔な環境づくりと心地よく過ごせる空間づくりを省エネスペースの中で工夫している。	清潔な環境は保っている。 心地よい環境や空間づくりを心掛け行きます
	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	3	1		朝終礼の他、終礼時には反省点や改善点を含め話し合っているほか、定期的な面談や月に1回以上のミーティングを実施し職員が広く参画できる環境づくりをしている。	全体会議や朝終礼などで目標の達成の確認や、振り返りを行い改善に努めています
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	3	1		アンケートを元に共有・意見交換など実施している。今後も継続して改善できていない点を改善するよう努めていきます。	アンケートや面談・送迎時などを通して意向などを把握し、定期的な会議を通して改善に努めている
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	1	2	1	社のホームページがリニューアルの為、現在は一時休止しているがリニューアル完成後すぐに公開します。周知しているが、今回のアンケートで初参加の職員も居り、評価表自体を知らない職員もいる。	こちらからの情報を今まで以上に発信していきたい
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	2		2	第三者評価の実施はしていない。同社の別事業所との交流などからの評価・検討・改善を行っている。	行っていない。 連絡会などをつなげていきたい
適切な 支援の 提供	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	4			月に一回事業所内研修を開催しているほか、連絡会の研修への参加や外部研修への参加をし質の向上を図っている。	
	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	4			保護者や本児からニーズなどを聞き取り客観的に分析し支援計画を作成している。	
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	2	2		事業所指定のソフトの様式を使用し、必要な支援が何か検討している。	より情報収集ができる環境を作り、ニーズに沿った計画作成ができるよう努めます
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	2	2		本児の状況に合わせた個別支援計画を作成している。	地域支援や関係機関との連携、家族支援などの内容を備考欄に記載していたので項目欄に具体的に設定していきます
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	4			支援計画の内容をスタッフ間で共有し実施している。	
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	3		1	定期的に活動内容を話し合う機会を設けている。スタッフ間で検討し日々の活動プログラムを実施している。活動内容を話し合う際に温度差があり決まるまでに時間がかかることがある。	職員の年齢差などによる温度差が出ないように進めていきます
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	4			苦手な部分をうまく取り入れた活動内容を工夫している。次につなげられる内容となるよう努めている。	

関係機関や保護者との連携	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせずて児童発達支援計画を作成している	4			個別と集団における双方の面から本児に適した支援ができるよう作成している。本児の状況や環境にも配慮し作成している。		
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	3		1	朝礼時や児童が通所するまでの期間に打ち合わせや分担共有を行っている。外出時など、当日に来所予定児童の変更や配車などの準備などでスムーズに流れないときがある。	今まで以上に準備時からの確認に努めていきます	
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	3		1	終礼時に反省や改善を含め当日の振り返りを行っている。その場にはいない職員についても引き継ぎ簿にて共有できるようにしている。時間がなく当日終礼に参加できない職員もいるが、翌朝礼時や引き継ぎ簿にて確認できている。	日々の確認の他、月に行う全体会議などで振り返りや確認を行っています	
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	4				活動内容や支援内容を記録し、共有している。	
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	4				定期的な状況の作成作成しモニタリングを行い計画の見直しが必要かなど話し合い検討している。	
	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	1	1	2		主に児童発達支援管理責任者や児童指導員、保育士が参加している。未だ参加していないので知らない。子どもの状況に精通した職員が参加していると感じていない。担当者職員と責任者との参加の実進を進めています。	児童発達支援管理責任者と、事業所内の会議で選任した職員の参加ができるよう努めていきます
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	2	2			必要な度、情報共有ができるよう努めている。	今後も、より連携した支援が行えるよう努めます
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	4				重症心身障害者の支援施設ではない。医療的ケアが必要な時のための連絡体制は、保護者を通して情報を共有しており取れている。	
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている					訪問看護師の訪問でメンタルケアのほか、情報共有や医療的観点からの助言などを頂いている。	
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	1	2	1		行っている児童と行っていない児童がいる。保護者を通して情報をいただいていることがほとんどである。今後は全員が行えるよう実施していきたい。	全員がくまなく行えるよう努力します
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	1	3			未だ該当児童はいないが、該当時には情報共有するよう準備している。	該当児童がいなくても準備はしている
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	1	2	1		必要に応じて連絡を取り合い情報交換や助言を仰いでいる。研修の頻度はなく回数を確保する必要性を感じています。	助言や情報の共有、連携は行っているが研修への参加はないため積極的に参加をしていけるよう上申していきます
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	1	2	1		地域の公園などで交流を行っている。コロナ禍で少ない時間帯など配慮しながら外出しているため、機会は少ない。	コロナ化が収束すれば進めていきたい
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	1	2	1		現在は参加できていない。機会を見つけ積極的に参加していきたい。	コロナ化が収束すれば参加を進めていきたい
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	4				送迎時、連絡帳ほか連絡ツールを利用し保護者と密に共有している。	

保護者への説明責任等	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	4			保護者の状況に寄り添い、必要に応じて助言を行っている。	
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	3	1		契約時や質問があった際には、丁寧な説明を心掛けている。	職員のなかで共通理解ができていない職員もいるため、全職員が理解し、同説明ができるよう整備していきたい
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	4			ガイドラインに基づいた計画作成と支援内容の説明と同意を得ている。	
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	4			送迎時や面談時他、保護者様と話す機会に聞き取りを行い対応している。	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		2	2	コロナウイルス感染症流行により実施できていない。今後この状況下が続くことを視野にリモートでの実施なども検討している。	リモートなどはネット環境の有無などもあるため、検討中。コロナ化が収束すれば事業所での実施を進めていきたい
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	4			職員間で速やかに共有し責任者が迅速に状況確認対応している。 対応後は整備改善に努めている。	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	4			取り組んだ活動の様子がわかるよう、迅速にフォトサービス(保護承認付き)を利用し公開している。行事予定や概要などが月に1回以上予定表や児童用カレンダーを作成し発信している。	
非常時等の対応	38	個人情報の取扱いに十分注意している	3		1	個人情報の漏洩が内容常に確認し注意を払っている。 パスワードや暗証番号がないと部外者が観覧することは不可能だが、アプリ管理となっている。	アプリ管理に不安を抱いている職員のいるが、セキュリティなどで管理している。今後も、情報の漏洩がないよう細心の注意を払っていきます
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	3	1		思いをくみ取れるよう努力している。 本児にあった伝達ツール(絵カード、視覚カード、マカオンなどを導き出し実施している。 検証中のものもあり、機能していないと感じるものもある。	今後も相手の立場に立ち思いをくみ取れるよう努力していきます
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		3	1	コロナウイルス感染症流行により地域住民の正体は実施できていないが、庭でのイベント開催や掲示板を使い地域へ発信している。	ハロウィンなどのイベント時には地域のお店にお願いし協力・交流を図る準備をしているが、本年はコロナ化で協力をお願いを自粛している
	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	4			契約時にご説明している。 必要な情報や季節性のもの、今回のコロナウイルスなどについては随時状況に応じて連絡にて保護者連絡職員への周知を行っている。	
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	4			定期的に訓練を実施している。 訓練以外にも地域を散策する活動などで避難経路の確認などを行っている。	
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	4			服薬情報は薬剤情報にいただいている。転換などについても保護者様と密に成長状況や変化に応じての注意点の確認などを行っている。	
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	3	1		医師からの指示書は無いが、保護者が医師から詳細あった指示を情報共有して下さっており書類におこし職員周知をしている。	保護者からの聴取や、検査結果のコピーを頂くなど個別に対応しているが、医師からの党事業所にあてた指示書はない
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	4			共有だけでなく事例検討し事業所内研修他連絡会でも共有している。	
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	4			年間研修ほか、日ごろから利用児との関わりについて人権が守れるよう適切な対応に努めている。	
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、児童発達支援計画に記載している		2	2	やむを得ない場合について、事業所として決定している場合についての説明は契約時に行っているが、該当する児童がいないため身体拘束の実施は無く、計画への記載をしている児童の該当者もない。	身体拘束の実施は無く、該当する児童もない。そのため、計画への記載をしている児童の該当者もない。